

## 人事部発 ITメディアの活用

—多様化する時代の社内コミュニケーション運用法—

㈱ベクトル 代表取締役社長 ト部 憲

### ■ 人事部門主導のIT戦略を模索するとき

ブログ、ツイッター、フェイスブックと、次々に新しいITメディアが登場している。新卒採用シーンに限っては、その進化がクローズアップされ、また個人的に使いこなしている社員も多くいる。一方で、組織としては何ら関わらず、“変なトラブルが起きないことをひたすら願うだけ”という姿勢も少なくない。しかし、今やITメディアは人々への影響度が大きく、しかも導入コストはほとんどかからない（障壁は「投資」を悩むまでもなく低い）。気が付けば、「これらインフラを社内で有効活用しない手はない」というところまで技術とサービスは進歩している。

では、さっそく当社でも、といたいところだが、「単にITインフラを整えた」というだけでは他社に差を付ける戦略的な活用には至らないだろう。紙の社内報をメールに置き換えただけでは双方向の特徴を活かせないのだ。その目的は、情報共有の徹底なのか、効率性の追求なのか、コミュニケーションの活性化なのか——求める機能に応じたメディアを選択し、適切な働き掛けを図り、軌道に乗せていく必要がある。そして、それを人事部門が担う意味は日に日に大きくなってきている。まずは本稿を頼りに自社の状況整理から取り組んではいかかだろう。

(編集部)

### CONTENTS

**1** はじめに：  
多様化する時代のコミュニケーション課題

**2** 自社内のコミュニティと課題を分析する

- (1) 組織のライフサイクル上の位置づけ
- (2) 組織・コミュニティの把握と課題の分析

**3** 自社に適したITメディアを選択する

- (1) ITメディアの特性分析
- (2) 受け手の視聴環境への配慮

**4** コミュニケーションツールの種類と  
企業内での活用例

- (1) メールマガジン
- (2) ステップメール
- (3) メーリングリスト
- (4) ツイッター
- (5) ブログ
- (6) SNS (Social Network Service)

**5** 情報リスクとマネジメント対応の方法

- (1) 情報マネジメント体制の構築
- (2) システム面での対応

**6** 最後に：  
“多対多”の情報活性化で組織力を強化せよ

### ■ ト部 憲

1956年、大阪生まれ。大阪市立大学卒業後、㈱ダイエーに入社。本社人事部門畑を歩む。2001年、人事本部副本部長。日経連一般職賃金制度部会委員等を歴任。2003年同社を退社し、㈱ベクトル設立。専門誌に寄稿多数。近著に『稼げすぎて困る熱血リーダー量産化計画』(幻冬舎)がある。

### ■ 株式会社ベクトル

●URL(本社)： <http://www.vector-up.com>

●URL(ソーシャルメディア活用支援)： <http://socialrecruit.jp>

< 東京本社 > 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-6 東京倶楽部ビルディング6F ● TEL：03-6693-5220

< 大阪支店 > 〒542-0081 大阪市中央区南船場4-2-11 ベネトン心斎橋ビル5F ● TEL：06-4704-5522

< 和歌山支店 > 〒640-8203 和歌山市東蔵前丁4番地 ファーストビル7F ● TEL：073-435-0360

